

令和 8 年度病虫害発生予察予報第 4 号(令和 8 年 7 月)

令和 8 年 7 月 7 日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量※
水稲 (早期稲)	いもち病(穂いもち) ごま葉枯病 ツマグロヨコバイ セジロウンカ イネクロカメムシ 斑点米カメムシ類	<u>多(西)</u> 、平年並(中央)、少(東、中西) <u>多(東、中央、西)</u> 、平年並(中西) やや少(東、西)、少(中央、中西) <u>多(東、西)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> 、少(中西) <u>多(中西、西)</u> 、 <u>やや多(東)</u> 、やや少(中央) <u>多(県下全域)</u>
水稲 (普通期稲)	いもち病(葉いもち) ごま葉枯病 ツマグロヨコバイ セジロウンカ トビイロウンカ	<u>やや多(中西、西)</u> 、やや少(中央)、少(東) <u>多(県下全域)</u> <u>多(東、中央、中西)</u> 、少(西) <u>多(西)</u> 、やや少(東、中西)、少(中央) やや少(中西、西)、少(東、中央)
カンキツ類 (温州ミカン)	そうか病 黒点病 ミカンハダニ 果樹カメムシ類	<u>やや多(中央)</u> 少(中央) <u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u>
カンキツ類 (中晩柑類)	そうか病 黒点病 かいよう病 ミカンハダニ 果樹カメムシ類	少(県下全域) <u>多(中西)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> 、やや少(東)、少(西) <u>多(東)</u> 、少(中央、中西、西) 平年並(中央、中西)、少(東、西) <u>多(県下全域)</u>
ナシ	果樹カメムシ類	<u>多(中央)</u>
青ネギ	ネギアザミウマ	<u>多(中央)</u>

※ ()内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部
県 東 部：安芸市、室戸市および安芸郡の町村
県中央部：高知市、南国市、香美市、香南市、長岡郡・土佐郡の町村、
吾川郡いの町および高岡郡日高村
県中西部：土佐市、須崎市、高岡郡(日高村を除く)町村および吾川郡仁淀川町
県 西 部：四万十市、宿毛市、土佐清水市および幡多郡の町村

I 気象予報(高松地方気象台 7 月 2 日発表)

7 月 4 日から 8 月 3 日までの天候見通し

<予想される向こう 1 か月の天候>

暖かい空気に覆われやすいため、向こう 1 か月の気温は高いでしょう。期間の前半は梅雨前線や湿った空気の影響を受けにくいため、向こう 1 か月の降水量は平年並か少ないでしょう。

期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

<向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

期間	対象地域	要素	低い(少ない)		平年並	高い(多い)
1か月	四国地方	気温	10	30	60	
		降水量	40		40	20
		日照時間	30	30	40	

<気温経過の各階級の確率(%)>

期間	対象地域	低い		平年並	高い
1週目	四国地方	10	40	50	
2週目		10	40	50	
3～4週目		10	40	50	

<予報の対象期間>

1 か月：7 月 4 日(土)～7 月 31 日(金)

1 週目：7 月 4 日(土)～7 月 10 日(金)

2 週目：7 月 11 日(土)～7 月 17 日(金)

3～4 週目：7 月 18 日(土)～7 月 31 日(金)

II 病虫害発生予想

1 早期稲の病虫害

1) いもち病(穂いもち)

予 想 発生量：多(西部)、平年並(中央部)、少(東部、中西部)

根 拠

(1) 6 月の葉いもちの調査では東部・中央部・西部で発生が確認され、発生面積は西部で多く、中央部で平年並、東部で少なかった。発病程度は西部で高く、中央部は平年並、東部で低かった。

(2) 例年 7 月は、県下全域で発生が見られるようになる。

(3) 早期稲の主要品種であるコシヒカリの出穂期は 6 月第 4 半旬頃から始まっている。
7 月の降水量は少ないか平年並と予想されているため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 気象や発生状況に注意し、進行型病斑を認めたら速やかに薬剤防除を行う。
- (2) QoI剤耐性菌発生を防止するため、QoI剤の使用回数は作期を通じて1回とする。

2) ごま葉枯病

予 想 発生量：多(東部、中央部、西部)、平年並(中西部)

根 拠

- (1) 6月の調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は東部・中央部・西部で平年よりも多く、中西部でやや少なかった。発生程度は東部・中央部・西部で高く、中西部で低かった。
- (2) 例年7月は中西部・西部では発生が増加し、東部・中央部でも発生が見られるようになる。
- (3) 本病の発生は、肥切れによって助長される。7月の気温は平年より高いと予想されているため、イネの老化が進みやすく、既発地域を中心に発生は増加するものと考えられる。

対 策

穂軸、枝梗に発生すると穂枯れを生じるので、発生の多いほ場では穂孕期～穂揃期に薬剤防除を行う。

3) ツマグロヨコバイ

予 想 発生量：やや少(東部、西部)、少(中央部、中西部)

根 拠

- (1) 6月の調査では東部・中央部・西部で発生が見られたが、いずれも平年より少なかった。発生程度も東部・中央部・西部ともに低かった。
- (2) 例年7月は東部・西部では増加し、中央部・中西部は減少する傾向が見られる。
- (3) 向こう1か月の気温は平年より高いと予想されており、本虫の増殖には好適となることから、発生は増加すると考えられる。

対 策

近年、本虫が媒介するイネ萎縮病の発生はほとんど発生していないが、出穂期から登熟期にかけて高密度になると稔実が悪くなることがあるので、その場合は他の病害虫とあわせて防除を行う。

4) セジロウンカ

予 想 発生量：多(東部、西部)、やや多(中央部)、少(中西部)

根 拠

- (1) 6月の調査では東部・中央部・西部で発生が見られ、発生面積は西部で平年より多く、東部でやや多く、中央部は平年並であった。発生程度は西部で高く、東部でやや高く、中央部で平年並であった。
- (2) 例年7月は県下全域で増加する傾向が見られる。
- (3) セジロウンカはトビイロウンカと同様、6～7月に中国大陸等から飛来してくる害虫であるため、未発生地域でも発生が見られるようになると考えられる。また、向こう1か月の気温は平年より高いと予想されており、本虫の増殖には好適となることから、発生は増加すると考えられる。

対 策

ほ場内での発生に注意し、密度が増加した場合には薬剤防除を実施する。

5) イネクロカメムシ

予 想 発生量:多(中西部、西部)、やや多(東部)、やや少(中央部)

根 拠

- (1) 6月の巡回調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は中西部・西部で多く、東部で平年並、中央部で少なかった。発生程度は中西部・西部で高く、東部で平年並、中央部で低かった。
- (2) 例年7月は東部・中央部で発生するが、発生面積は少なく、発生程度も低い。
- (3) 越冬世代成虫の本田への飛来最盛期は6月下旬～7月上旬、幼虫は7月中旬頃から発生し、8月下旬に最盛期となる。

対 策

本虫はイネの全生育期間にわたり加害し、心枯茎による有効茎数の減少、穂への加害による収量減を引き起こす。発生が見られるほ場では、越冬世代成虫の発生盛期(6月下旬～7月上旬)と若齢幼虫期(8月上旬)の防除適期に薬剤防除を行う。

6) 斑点米カメムシ類

予 想 発生量:多(県下全域)

根 拠

- (1) 6月の調査では、県下全域で斑点米カメムシ類(ミナミアオカメムシ、イネカメムシ、クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、シラホシカメムシ、アカスジカスミカメ)が確認された。また、6月中旬のアザミウマ類のすくい取り調査においても、クモヘリカメムシ等が捕獲されている。
- (2) 例年7月は県下全域で発生が増加する傾向が見られる。
- (3) 向こう1か月の気温は平年より高いと予想されており、本虫の増殖や活動に好適な条件が続くことから、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 出穂期以降にカメムシ類の発生がわずかでも見られる場合、斑点米の発生が予想されるので、穂揃期及びその7～10日後に防除する。ただし、イネカメムシの発生が多い場合には、出穂期の加害により不稔となる恐れがあるので、出穂期に防除を実施する。
- (2) ミナミアオカメムシの発生が見られる場合は、合成ピレスロイド剤の効果が劣るので、他系統の剤(ネオニコチノイド剤等)を用いる。

2 普通期稲の病害虫

1) いもち病(葉いもち)

予 想 発生量: やや多(中西部、西部)、やや少(中央部)、少(東部)

根 拠

- (1) 6月の調査では、中央部、中西部、西部で発生が見られ、発生面積は中西部・西部で平年よりも多く、中央部で平年並であった。発生程度は中西部・西部で高く、中央部で平年並であった。

- (2) 例年 7 月は県下全域で減少する傾向が見られる。
- (3) 四国地方の向こう 1 か月の降水量は低いか平年並と予想されていることから、現在から減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 気象や発生状況に注意し、進行型病斑を認めたら速やかに薬剤防除を行う。
- (2) QoI 剤耐性菌発生を防止するため、QoI 剤の使用回数は作期を通じて 1 回とする。

2) ごま葉枯病

予 想 発生量:多(県下全域)

根 拠

- (1) 6 月の調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は全域で平年よりも多く、発病程度は東部・中央部・西部で高く、中西部で平年並であった。
- (2) 例年 7 月は県下全域で 6 月より増加する傾向が見られる。
- (3) 向こう 1 か月の気温は平年より高いと予想されていることから、現在発生が見られない地域でも既発ほ場を中心に発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 適切な中干しや水管理を実施し、根の活力を維持する。
- (2) 穂軸や枝梗に発生すると穂枯れを生じるので、発生が見られるほ場では薬剤防除を実施する。

3) ツマグロヨコバイ

予 想 発生量:多(東部、中央部、中西部)、少(西部)

根 拠

- (1) 6 月の調査では東部・中央部・西部で発生が見られ、発生面積はいずれの地域も多かった。また、発生程度も高かった。
- (2) 例年 7 月は東部では増加し、中西部では同程度、中央部・西部では減少する傾向が見られる。
- (3) 向こう 1 か月の気温は平年より高いと予想されており、本虫の増殖には好適となることから、発生は増加すると考えられる。

対 策

近年、本虫が媒介する萎縮病の発生はほとんど見られていないが、出穂期から登熟期にかけて高密度になると稔実が悪くなることがあるので、その場合は他の病害虫とあわせて防除を行う。

4) セジロウンカ

予 想 発生量:多(西部)、やや少(東部、中西部)、少(中央部)

根 拠

- (1) 6 月の調査では西部で発生が見られ、発生面積は平年よりも多く、発生程度は高かった。
- (2) 例年 7 月は東部・中西部・西部で同程度の発生が見られ、中央部では減少する傾向が見られる。
- (3) 6～7 月に中国大陸等から飛来してくる害虫であるため、未発生地域でも発生が見られるようになると考えられる。また、向こう 1 か月の気温は平年より高いと予想されており、本虫の増殖には好適となることから、発生は増加すると考えられる。

対 策

ほ場内での発生に注意し、密度が増加した場合には薬剤防除を実施する。

5) トビイロウンカ

予 想 発生量:やや少(中西部、西部)、少(東部、中央部)

根 拠

- (1) 6月の巡回調査では発生は見られなかった。
- (2) 例年7月は中西部・西部で増加し、東部・中央部でも発生が見られるようになる。
- (3) トビイロウンカは6～7月に中国大陸等から飛来してくる害虫であるため、未発生地域でも発生が見られるようになると考えられる。向こう1か月の気温は平年より高いと予想されていることから、本虫の増殖に好適となるため、発生が増加すると考えられる。

対 策

移植時にウンカ類を対象とした箱施用剤などによる防除を実施していないほ場では、7月下旬に薬剤撒布を実施する。本虫は株元に寄生するので、防除を行う場合は株元に薬剤が十分かかるようにする。

3 カンキツ(温州ミカン)の病害虫

1) そうか病

予 想 発生量:やや多(中央部)

根 拠

- (1) 6月の調査では、発生面積は平年並の発生となり、発生程度は平年よりも高かった。
- (2) 例年7月は同程度の発生が続く傾向が見られる。
- (3) 四国地方の向こう1か月の降水量は低いか平年並と予想されていることから、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

幼木や発生の多い園地では、黒点病との防除を兼ねて、予防的な薬剤散布により感染を防ぐ。また、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2) 黒点病

予 想 発生量:少(中央部)

根 拠

- (1) 6月の調査では、発生面積は平年より少なく、発生程度も低かった。
- (2) 例年7月は増加する傾向が見られる。
- (3) 四国地方の向こう1か月の降水量は低いか平年並と予想されていることから、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生をできるだけ少なくするように管理する。
- (2) 前回の防除以後の累積降雨量が250mm前後に達した時点で次の散布を行う。一般的には5月中下旬から7月上旬の間に3回程度、8月下旬から9月上旬にかけて1

～2回散布する。発病の多いほ場では適宜散布回数を増やす。

3) ミカンハダニ

予 想 発生量:多(中央部)

根 拠

- (1) 6月の調査では、発生面積は平年より多く、発生程度も高かった。
- (2) 例年7月はやや増加する傾向が見られる。
- (3) 向こう1か月の気温は高いと予想されている。本虫は高温期には増殖が緩慢となることから、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

薬剤抵抗性の発達を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

4) 果樹カメムシ類

予 想 発生量:多(中央部)

根 拠

- (1) 6月の調査では、ほ場で確認されなかった。
- (2) 県内4地点に設置したフェロモントラップによる6月第5半旬までの誘殺数は、県下全域で平年より多かった。また、県内2地点に設置した予察灯においては、南国市でツヤアオカメムシ2頭(0.6頭)、ミナミアオカメムシ37頭(4.1頭)、チャバネアオカメムシ2頭(2.0頭)、四万十市でツヤアオカメムシ5頭(6.6頭)、ミナミアオカメムシ4頭(0頭)、チャバネアオカメムシ12頭(3.7頭)の誘殺が見られた。
- (3) 7～9月の気温は平年より高くなると予想されており、今後、果樹カメムシ類の活動が活発になると予想される。

対 策

果樹園周辺の雑木林から飛来してくるので、ほ場内をよく観察して、飛来を確認したら速やかに防除を実施する。

4 カンキツ(中晩柑類)の病害虫

1) そうか病

予 想 発生量:少(県下全域)

根 拠

- (1) 6月の調査では東部で発生が見られた。発生面積は平年より少なく、発生程度も低かった。
- (2) 例年7月は東部・中央部では同程度の発生が見られ、中西部・西部では減少する傾向が見られる。
- (3) 四国地方の向こう1か月の降水量は低いか平年並と予想されていることから、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

幼木や発生の多い園地では、黒点病との防除を兼ねて、予防的な薬剤散布により感染を防ぐ。また、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2) 黒点病

予 想 発生量:多(中西部)、やや多(中央部)、やや少(東部)、少(西部)

根 拠

- (1) 6月の調査では東部・中央部・中西部で発生が見られ、発生面積は中西部で多く、中央部で平年並、東部で少なかった。発生程度は中西部で高く、中央部で平年並、東部で低かった。
- (2) 例年7月は県下全域で増加する傾向が見られる。
- (3) 四国地方の向こう1か月の降水量は低いか平年並と予想されているが、例年の発生状況から、現在の状況からやや増加すると考えられる。

対 策

- (1) 密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生をできるだけ少なくするように管理する。
- (2) 前回の防除以後の累積降雨量が250mm前後に達した時点で次の散布を行う。一般的には5月中下旬から7月上旬の間に3回程度、8月下旬から9月上旬にかけて1～2回散布する。発病の多いほ場では適宜散布回数を増やす。

3) かいよう病

予 想 発生量:多(東部)、少(中央部、中西部、西部)

根 拠

- (1) 6月の調査では東部で発生が見られ、発生面積は平年よりやや多かった。発生程度はやや高かった。
- (2) 例年7月は東部・西部で増加し、中央部・中西部で減少する傾向が見られる。
- (3) 台風の接近または上陸による強風や、ミカンハモグリガによる被害が見られるほ場では、発病が増加すると考えられる。

対 策

銅剤等の散布による予防に努めるとともに、発病がみられる夏秋梢は剪定、除去する。

4) ミカンハダニ

予 想 発生量:平年並(中央部、中西部)、少(東部、西部)

根 拠

- (1) 6月の調査では中央部・中西部で発生が見られ、発生面積はともに平年並であった。発生程度は中央部で高く、中西部は平年並であった。
- (2) 例年7月は東部・西部では増加し、中央部・中西部では同程度の発生が見られる。
- (3) 向こう1か月の気温は高いと予想されている。本虫は高温期には増殖が緩慢となることから、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

薬剤抵抗性の発達を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

5) 果樹カメムシ類

予 想 発生量:多(県下全域)

根 拠

- (1) 6月の調査では、ほ場では確認されなかった。
- (2) 県内4地点に設置したフェロモントラップによる6月第5半旬までの誘殺数は、県下全域で平年より多かった。また、県内2地点に設置した予察灯においては、南国市でツヤアオカメムシ2頭(0.6頭)、ミナミアオカメムシ37頭(4.1頭)、チャバネアオカメムシ2頭(2.0頭)、四万十市でツヤアオカメムシ5頭(6.6頭)、ミナミアオカメムシ4頭(0頭)、チャバネアオカメムシ12頭(3.7頭)の誘殺が見られた。
- (3) 7～9月の気温は平年より高くなると予想されており、今後、果樹カメムシ類の活動が活発になると予想される。

対 策

果樹園周辺の雑木林から飛来してくるので、ほ場内をよく観察して、飛来を確認したら速やかに防除を実施する。

5 ナシの病害虫

1) 果樹カメムシ類

予 想 発生量:多(中央部)

根 拠

- (1) 6月の調査では、ほ場では確認されなかった。
- (2) 県内4地点に設置したフェロモントラップによる6月第5半旬までの誘殺数は、県下全域で平年より多かった。また、県内2地点に設置した予察灯においては、南国市でツヤアオカメムシ2頭(0.6頭)、ミナミアオカメムシ37頭(4.1頭)、チャバネアオカメムシ2頭(2.0頭)、四万十市でツヤアオカメムシ5頭(6.6頭)、ミナミアオカメムシ4頭(0頭)、チャバネアオカメムシ12頭(3.7頭)の誘殺が見られた。
- (3) 7～9月の気温は平年より高くなると予想されており、今後、果樹カメムシ類の活動が活発になると予想される。

対 策

果樹園周辺の雑木林から飛来してくるので、ほ場内をよく観察して、飛来を確認したら速やかに防除を実施する。

6 青ネギの病害虫

1) ネギアザミウマ

予 想 発生量:多(中央部)

根 拠

- (1) 6月の調査では全ほ場で発生が見られ、発生面積は多く、発生程度はやや高かった。
- (2) 四国地方の向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か少ないと予想されていることから、現在の発生が続くと考えられる。

対 策

同一系統の農薬を連用すると抵抗性が発達しやすいので、異なる系統の農薬をローテーション散布する。

農作物の病虫害防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病虫害防除所ホームページ(こうち農業ネット)<https://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

- ①病虫害発生予察月報、病虫害発生予察予報
- ②病虫害発生予察注意報、病虫害発生予察警報、病虫害発生予察特殊報
- ③病虫害発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病虫害 etc.

高知県農薬情報システム <https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/haishinfile/list/kochi>

- ①農薬の検索
- ②農薬データの一覧
- ③配信ファイルの閲覧(農薬安全使用、病虫害防除指針 etc.)